



# ひかいのこ

2023年度 **6月号**

日本キリスト教団  
**名古屋新生教会 子どもの礼拝(CS)**  
 名古屋市西区天神山3-7 Tel.052-531-1820  
 ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索

「コロナ前の時代」と大人の感覚で表現することも多いですが、子どものみなさんにとっての3年前は、すでに「昔」かもしれません。コロナの前の時代はあまり覚えていないという人もいられることでしょう。いずれにしても、新たな時代、新たな生活様式がスタートしています。コロナに限らず、私たちは未来に向かっていつも新たなスタートの繰り返しです。今日の一日は昨日とは違う、明日の一日も今日とは違う、その日その日が新たな一日です。一日を大切に！

## 今月の礼拝 単元2: 神が造られた世界 📖…お話し 🎵…奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生) 9:00 ~ 9:30	プレイ・タイム (小学生/中学生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00 ~ 10:20
6月4日	カインとアベル	創世記 4:1-16	📖 武岡 基 🎵 堤 砂里奈	花の日・子どもの日行事 (担当: いづみ)	📖 安達正樹 教師 🎵 堤 砂里奈
6月11日 花の日・子どもの日	ノアと箱船	創世記 6:5-7:24	📖 安達正樹 教師 🎵 武岡路実	花の日・子どもの日行事 (担当: いづみ)	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
6月18日	約束の虹	創世記 8:1-9:17	📖 堤 砂里奈 🎵 安達いづみ		📖 武岡 基 🎵 安達いづみ
6月25日	バベルの塔	創世記 11:1-9	📖 武岡路実 🎵 堤 砂里奈		📖 安達いづみ 🎵 堤 砂里奈

## 花の日・子どもの日 6月11日

教会の暦で、6月第2週の日曜日は「花の日」と「子どもの日」です。「花の日」として、教会を花で飾ったり、花を持って自分たちがお世話になっている方々を訪問したり、お見舞いに行ったりすることもあります。「子どもの日」としては、子どもの健康や成長を祈る礼拝を守ったり、祝会を催したりします。名古屋新生教会では礼拝堂にお花を飾って礼拝を守ります。



**CS夏の行事〈予告編〉**…詳しくは後日お知らせしますが、予定しておいてください。

☆ **CS デーキャンプ 2023** 7月22日(土)  
 サマーキャンプのプログラムの一部を、泊まりなしの1日で行います。  
 行き先や内容などは、お・た・の・し・み…お楽しみ！

☆ **CS ミニ夏まつり** 8月の日曜日の午後  
 昨年と同じように、第1部「映画を見よう」、第2部「水遊びをしよう」を計画中。  
 2週にわたって行う予定です。内容などは…お楽しみに！



## 今月の聖句

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。  
 見よ、それは極めて良かった。

(創世記 1:31)

## 今月のさんびか♪

こどもさんびか 109 (ロケットにのって)

今月の礼拝では、5月に続いて『創世記』から学びます。この創世記ではまず、この世の中がどのように造られたかという記述から始まり、人間がどのように造られたかといったことも記されています。つい「科学的にはどうなの?!」「進化論はウソなの?!」「聖書を書いた人はそれを見たの?!」といった疑問がわいてきます。大切なのは、聖書の記述をもとに、私たちはどのように行動するべきか、私たちはどのように生きていくべきか、です。神さまがお造りになった地球、空、海、動物、人間…そして“私”、それらは「極めて良かった」と神さまがおっしゃるほどの「できばえ」なのです。だからこそ、それらを壊したり、傷つけたり、良くないと思ったりすると、神さまはどう思われるのでしょうか。

今月のさんびかは109「ロケットにのって」です。これまでも礼拝で歌ったことがある賛美歌です。作詞者の阪田寛夫さん(1925-2005)は、以前に117『さあ てをくんで』でも紹介しました。覚えているでしょうか?大阪市に生まれ、熱心なキリスト教徒の家庭に育ち、14歳のときに南大阪教会で洗礼を受けました。東京大学文学部を卒業の後、詩人、小説家、児童文学作家として活躍しました。彼が作詞した作品は数多く、童謡など子どもにとって馴染みのある作品だけでも、『サッチャーン』、『おなかのへるうた』(♪どうして おなかの へるのかな けんかをすると へるのかな)、『そうだ村の村長さん』(♪そうだむらの そんちょうさんが ソーダのんで しんだそうだ)、『マーチング・マーチ』(♪マーチったらチツカカタ 行進だ)、『やきいも グーチーパー』(♪やきいも やきいも おなかの グー)、さらには子どもから大人まで誰もが知っている『ねこふんじゃった』…どれも親しみある歌詞ですね。

作曲者の磯部 徹さん(1917-1998)は、日本の合唱指揮者・作曲家で、東京都大森で生まれました。早稲田大学文学部芸術学科を卒業しますが、在学中から作曲を学び、15年間早稲田大学グリークラブの専任指揮者を務め、他にも数多くの合唱団の指導に当たりました。1955年に新しいこどもの歌の創作活動「ろばの会」の結成に関わり、数々の賞を受賞しました。後半生は藤沢市に住み、藤沢市民オペラを発足させるなど、地域文化の向上に努めました。また、美しい日本語の歌を創り広める活動にも参加し、「新なみの会」会長を10年務めました。晩年まで創作意欲は衰えることなく、80歳を超えて生涯を終える直前の1998年には室内オペラ『夕立』を作曲しました。

この賛美歌は1981年に作られ、『こどもさんびか2』(1993)に収録されました。地球の外から私たちの住んでいるこの世界を見渡すという画期的な内容で、聖書の時代に誰が想像できたことでしょうか。人種や言葉の違いを越えて、みんな一つの星、神の国の子どもたちであると歌います。歌い出しから6度の跳躍で始まり、ところどころ高い音へ跳躍する曲調が、あたかもロケットに乗っているかのような躍動感にあふれています。跳び上がる高音が取りにくいですが、頭の中で「次の高音」を思い描いて、「高音」を目指してしっかり飛び上がりましょう。

## たんじょうびおめでとう🎉

## 6月生まれのお友だち

「子どもの礼拝(CS)」ってなあに?

幼児から小学生、中学生のみなさんへの礼拝や教会プログラムを、多くの教会では「教会学校」と称しています。これは欧米から伝わった「Church School (CS)」を訳した言葉です。名古屋新生教会では、教会は、普段通っている学校とは違う、みなさんにとって“自分の居場所・神さまとの出会いの場”であってほしい、それは小学校に入る前の保育園・幼稚園に通っている子どもたちにとっても同じであってほしい、との思いから、「子どもの礼拝」(Children's Service: CS)と呼んでいます。

礼拝では聖書(神さまの言葉)を子ども向けにわかりやすくお話します。礼拝後の分級では学校とは違った自由な雰囲気の中で楽しい時間を過ごします。「ティーンズ礼拝」「こどもれいはい」それぞれ対象年齢を示していますが、どちらに出席されても構いません。普段は礼拝に出席していない人でも、行事だけ参加するのも大歓迎です。

名古屋新生教会は人数も少なく、家庭的であったかい教会です。いつからでも、誰でも、大歓迎します。